



センサー水栓

取扱施工説明書

施工前・使用前に必ずお読みください。

お読みになったあとは、いつでも見られる所に必ず保管してください。
この取扱施工説明書は、別紙「安全上のご注意」と合わせてご使用ください。

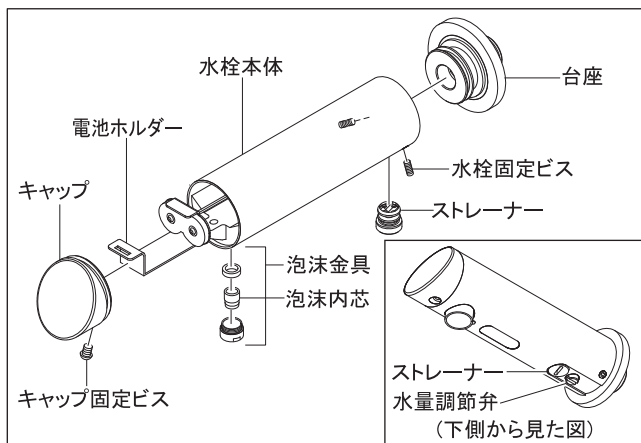
このたびは、センサー水栓をお求めいただきまして、まことにありがとうございます。
ました。

製品同梱明細・各部のなまえ

| | |
|------------|---|
| センサー水栓 | ○ |
| 台座 | ○ |
| 水栓固定ビス(2コ) | ○ |

- * 上記部材に加えて、
- 取扱施工説明書 ●取扱シール
 - 安全上のご注意 ●保証書
 - 六角レンチ(対辺2.5ミリ)
 - リチウム電池(CR-P2)

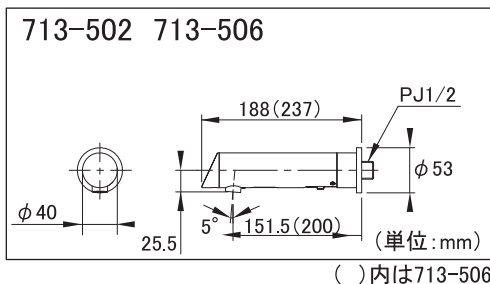
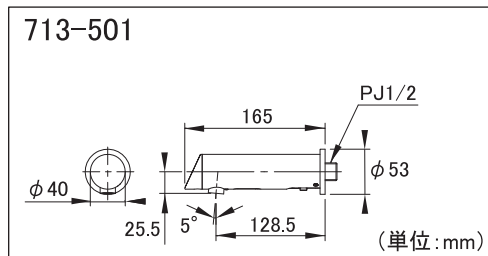
を同梱しています。



仕様・寸法図

| | |
|----------|---------------------------|
| 電源 | リチウム電池CR-P2 (DC6V) |
| 電池寿命 | 約2年(100回/1日を目安とする) * 1 |
| 検知距離 | センサー部より100ミリ~150ミリ * 2 |
| 使用流体 | 上水道水 |
| 給水圧力使用範囲 | 0.05MPa(流動圧)~0.75MPa(静水圧) |
| 使用室温範囲 | 室温:1°C~50°C |
| 使用水温範囲 | 水温:1°C~50°C * 凍結不可 |
| 用途 | パブリックおよび一般住宅洗面用 |

* 1: 使用条件、環境により異なります
* 2: 大人の手のひらに対する距離



施工に必要な工具

- 六角レンチ(対辺10ミリ)
- プラスドライバー
- マイナスドライバー

取付けの前に

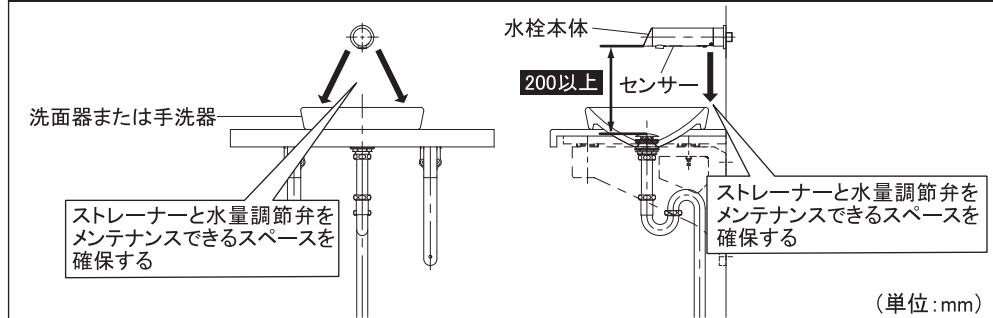
●使用条件(給水圧力)の確認

- * 使用給水圧力範囲は0.05MPa(流動圧)~0.75MPa(静水圧)です。
- * 給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で0.2MPa程度に減圧してください。
- * 快適にご使用いただくためには、0.2MPa程度の給水圧力をおすすめします。
- * 本製品は水用です。給水温度は50°C以下にしてください。

●施工寸法の確認

(取付位置を決定する際の注意事項)

ステンレス製の器と組み合わせると、誤作動を起こす恐れがあります。
ステンレス製以外の器と組み合わせる場合でも、水栓本体下側のセンサーから洗面器または
手洗器の底面(化粧キャップなどがある場合はその天面)まで200ミリ以上を確保してください。



取付けの前に(つづき)

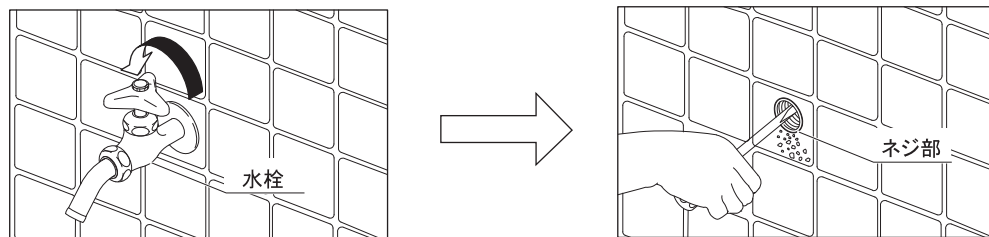
●その他

- * センサーを傷つけないように十分にご確認ください。
- * 温風乾燥機など赤外線を用いた機器と合わせて使用する場合は、それらの機器の赤外線ビームが本品のセンサーや陶器(手洗器)内に入らないようにしてください。
- * 以下のような場合、動作に支障をきたす原因となることがあります。
放送局、無線局などの強い電磁波を発生する施設(機器等)が近くにある場合。
インバーターや赤外線、電波を用いた機器、医療機器(各種検査装置など)が近くにある場合。
- * センサーの検知領域内に障害物が入らないようにしてください。
- * 本製品は屋内用です。屋外では使用しないでください。
- * 梱包前に通水検査をしているため、製品内に水が残っている場合がありますが、製品には問題はありません。

取付方法

* 数秒間水を通し、配管内のゴミなどを洗い流してから、元栓を閉めて取付作業を行ってください。

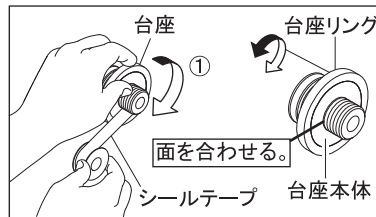
1. 古い水栓を取外します。



「水栓取外レンチ」などで水栓本体を左方向(時計まわりの逆方向)にまわして、古い水栓を取外します。
次に壁面内のネジ部を掃除します。

- 水栓本体は、重量があります。落下などに十分注意して作業を行ってください。
- ネジ部にシールテープや接着剤が残っていると、漏水やセンサー水栓の故障の原因になります。必ずネジ部の掃除を丁寧に行ってください。

2. 台座を取付けます。



①左手で台座をしっかり握り、右手で台座のネジ部にシールテープをあてます。
そのまま軽く引張りながら右方向(時計まわり)に7~8回、全体に均等になるように巻付けます。
巻終わりましたら、シールテープを強く引っ張りちぎります。

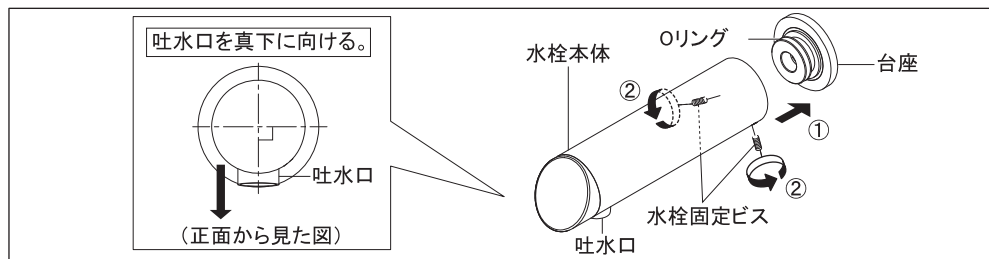
* 713-501の場合は台座リングをまわして、壁面に当たる部分の面を台座本体と合わせておきます。



②台座を壁面内のネジ部にねじ込み、「六角レンチ」(対辺10ミリ)で壁面に当たるまで締め付けます。

- 台座を取付ける際、逆方向にまわしてゆるめると漏水の原因になります。
ゆるめてしまった場合は、もう一度手順①からやり直してください。

3. 水栓本体を取付けます。

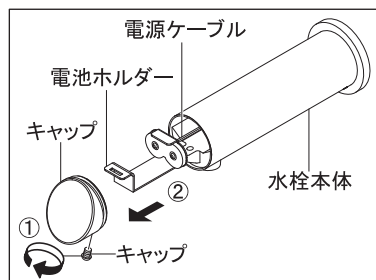


①台座のOリングにゴミなどが付いていないことを確認してから、イラストのように吐水口を真下に向けて水栓本体を台座にあたるまで差し込みます。

②付属の「六角レンチ」で水栓固定ビスを締め付けて固定します。

- 水栓本体は重量があります。落下などに十分注意して作業を行ってください。

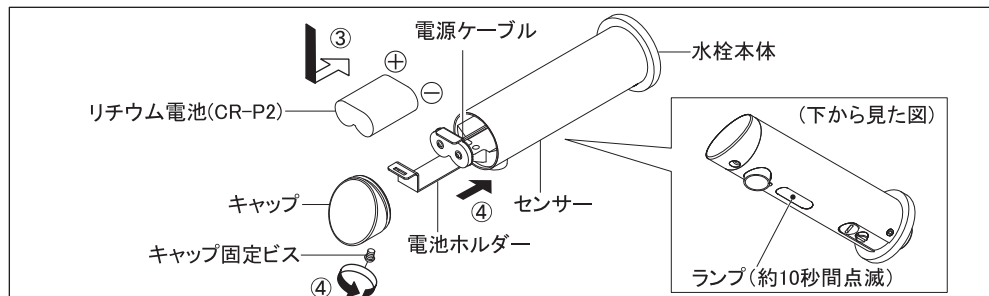
4. 電池を取付けます。



①キャップ下側のキャップ固定ビスを「プラスドライバー」でゆるめてキャップを水栓本体から取外します。

②電池ホルダーを水栓本体から抜き取ります。

- 電池ホルダーを水栓本体から抜き取る際は電池ホルダーを強く引っ張らないでください。
電源ケーブルが断線する恐れがあります。



③電池を電池ホルダーに取付けます。

電池を取付けると、「カチッ」という作動音が1回あり、センサーのランプが約10秒間点滅します。作動音がなく、センサーのランプが点滅しない場合は、電池の極性(⊕⊖の向き)を確認して取付け直してください。

* 電池を取付けるとセンサーが初期設定を行いますので、センサーに手や体を近づけたり、陶器(手洗器内)に障害物を置いたりしないでください。

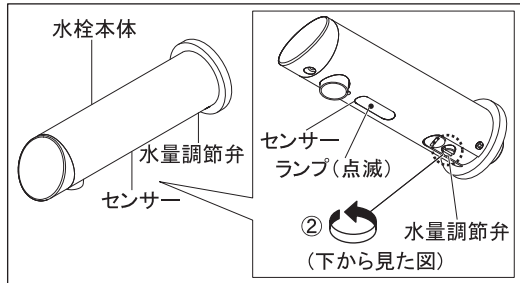
④①~②の逆の手順でキャップを元に戻します。

- 電池を取付ける際は、極性(⊕⊖の向き)を間違えないように取付けてください。電池の破損や、液漏れにより、ケガをしたり周囲を汚損する原因となる場合があります。
- 新しい電池と古い電池や、異なる種類の電池を混ぜて使用しないでください。電池の破損や、液漏れにより、ケガをしたり周囲を汚損する原因となる場合があります。
- 電池を取付ける際は、水栓本体内に水が入らないように注意してください。
- 電池ホルダーを元に戻す際は、電源ケーブルをかみ込まないように注意してください。
- 電池はリチウム電池(CR-P2)を使用してください。

裏面へ続く➡

取付方法(つづき)

5. センサーと水量調節弁を確認します。



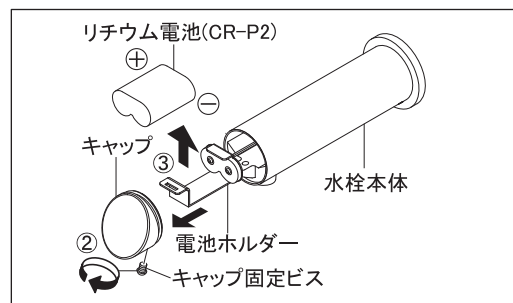
①センサーに手をかざしたり、陶器(手洗器)内に障害物を置いたりしていない状態で、センサーのランプが点滅(約0.5秒間隔)していないことを確認します。

*ランプが点滅している場合は、電池を取付けた際に、センサーに手や体が近づいていたり、センサーの前に障害物があったためのエラー表示です。その場合はセンサーの前に手や障害物がないことを確認し、電池を取付け直してください。

②元栓を開めた状態で水栓本体下側の水量調節弁が全開であることを確認します。

*全開になっていない場合は「マイナスドライバー」でまわして全開にしてください。

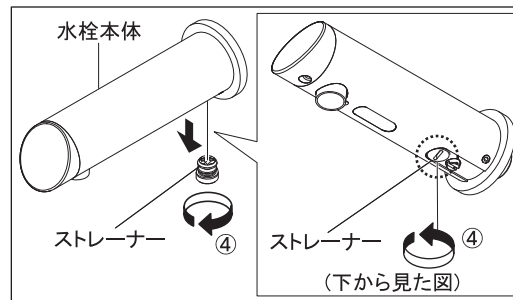
お手入れのしかた(つづき)



②キャップ下側のキャップ固定ビスを「プラスドライバー」でゆるめてキャップを水栓本体から取外します。

③電池ホルダーを水栓本体から取り、電池を電池ホルダーから取外します。

注意 電池ホルダーを水栓本体から抜取る際は電池ホルダーを強く引っ張らないでください。電源ケーブルが断線する恐れがあります。



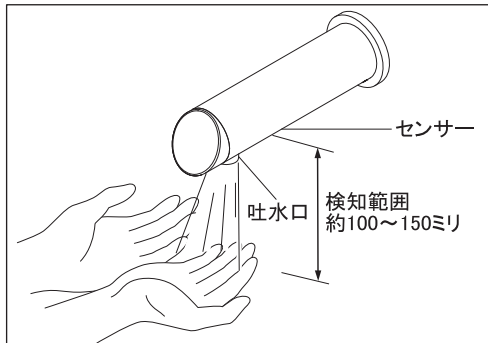
④水栓本体下側のストレーナーを「マイナスドライバー」でゆるめて取出し、網目に詰まったゴミなどを取除きます。

⑤②～④の逆の手順で元に戻します。

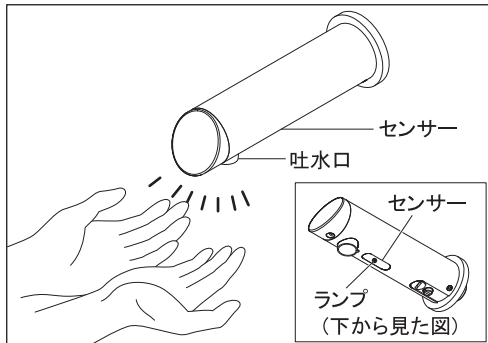
⑥①で閉めた水栓本体下側の水量調節弁を開き、各部の漏水および動作の確認を行います。漏水が発見された場合は、水量調節弁を閉めて漏水する箇所を施工しなおしてください。水量調節弁を開いた際に吐水口からの水が止まらない場合には、一度、水量調節弁を開けてから電池を取付け直してください。吐水口に定流量弁を内蔵していますので、**通常は流量の調節は不要です。止水栓は全開の状態で使用してください。**約10～20秒間連続して水を出して流量を安定させてください。

取付け後の点検

●水を出す



●水を止める



①元栓を開き、各部に漏水がないかを確認します。元栓を開いた際に吐水口からの水が止まらない場合には、一度元栓を閉めてから電池を取付け直してください。吐水口に定流量弁を内蔵していますので、**通常は流量の調節は不要です。水量調節弁は全開の状態で使用してください。**漏水が発見された場合は、元栓を閉めて漏水する箇所を施工しなおしてください。

②吐水口に手を近づけて水を出し、各部に漏水がないかを確認します。漏水が発見された場合は、元栓を閉めて漏水する箇所を施工しなおしてください。水が出ない場合は、**取付方法「4.電池を取付けます。」**の手順に戻って、確認してください。**取付後に初めて水を出す場合は、約10～20秒間連続して水を出して流量を安定させてください。**
*吐水口から手を離すと約1～2秒で水が止まります。
*手を近づけた状態で、約30秒間連続して水を出すと、センサーのランプが点滅(約1秒間隔)して自動的に水が止まります。再び水を出す場合は、一度手を吐水口から離してください。

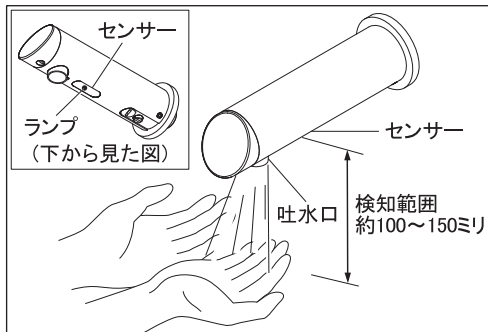
●センサーのランプが点滅したときは(エラー表示)

*ランプが点滅すると手をかざしても水が出なくなります。

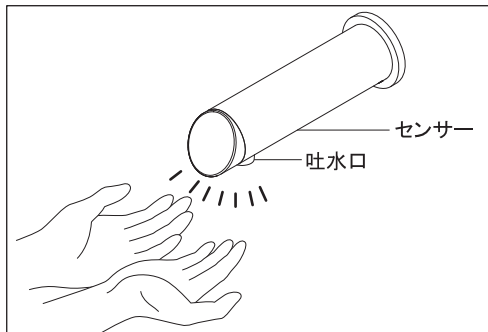
| ランプ | 点滅パターン | エラー内容と対処のしかた |
|-----|---------------------|---|
| | 約0.5秒間隔で点滅 約0.5秒 | 電池を取付けた際に、センサーに手や体が近づいていたり、センサーの前に障害物があったためのエラー表示です。センサーの前に手や障害物がないことを確認してから、電池を取付け直してください。 |
| | 約1秒間隔で点滅 約1秒 | センサーの検知異常を示すエラー表示です。センサーの表面の水滴や汚れ、センサーの前の障害物を取除いてください。 |
| | 約2秒間隔で点滅 約2秒 | 電池が消耗していることを示すエラー表示です。新しい電池に交換してください。 |

使用方法

●水を出す



●水を止める



吐水口に手を近づけると、センサーのランプが1回点滅して水が出ます。
吐水口から手を離すと約1～2秒で水が止まります。
*手を近づけた状態で、約30秒間連続して水を出すと、センサーのランプが点滅(約1秒間隔)して自動的に水が止まります。再び水を出す場合は、一度手を吐水口から離してください。

電池の交換方法

①水栓本体下側の水量調節弁を「マイナスドライバー」で閉めて水を止めます。
*水量調節弁を閉める際にセンサーが手などを検知して水が出る場合がありますので、注意してください。
②**取付方法「4.電池を取付けます。」**および**「5.センサーと水量調節弁を確認します。」**の①の手順に従って電池を交換してください。
③水量調節弁を「マイナスドライバー」で開きます。
*水量調節弁は全開の状態で使用してください。

こんな時には… 簡単な点検と対処

機能が正常に働かない時は、次の要領で点検を行ってください。

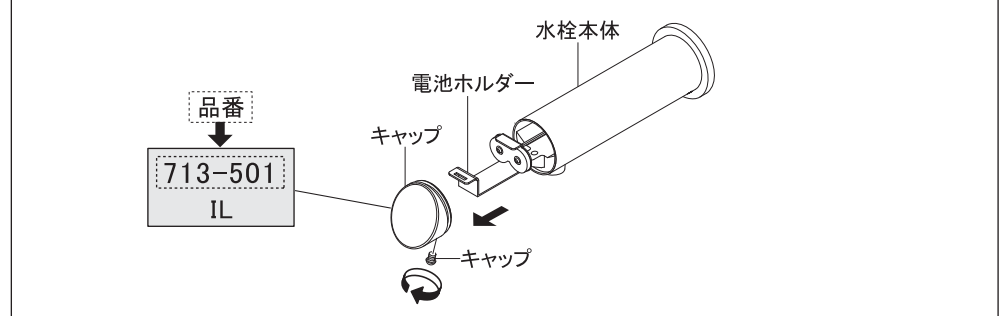
| 現象 | 原因 | 対処のしかた |
|------------|--------------------------------------|------------------------|
| 吐水量が少ない | ●水量調節弁または元栓が閉まっている。 | ●水量調節弁を全開にする。または元栓を開く。 |
| | ●ストレーナーの目詰まり。 | ●ストレーナーのゴミを取除く。 |
| | ●泡洩内芯の目詰まり。 | ●泡洩内芯のゴミを取除く。 |
| | ●水がきていない。 | ●元栓を開く。 |
| | ●水量調節弁が閉まっている。 | ●水量調節弁を全開にする。 |
| | ●ストレーナーの目詰まり。 | ●ストレーナーのゴミを取除く。 |
| 全く吐水しない *1 | ●電池が正しく取付けられていない。 | ●電池の⊕⊖を正しく取付ける。 |
| | ●電池が消耗している。 | ●新しい電池に交換する。 |
| | ●センサー表面が汚れている。 | ●センサー表面の汚れを取除く。 |
| | ●センサーの前に障害物がある。 | ●障害物を取除く。 |
| | ●センサー表面が汚れている。 | ●センサー表面の汚れを取除く。 |
| | ●センサーの前に障害物がある。 | ●障害物を取除く。 |
| 止水不良 *2 | ●インバーターや赤外線を用いた機器が近くにある。 | ●該当する機器を遠ざける。 |
| | ●他の機器の赤外線ビームが本品のセンサーや陶器(手洗器)内に入っている。 | ●該当する機器を遠ざける。 |
| | | |

*1: センサーのランプが点滅しているときは「●センサーのランプが点滅したときは(エラー表示)」を参照してください。

*2: 吐水口から手を離して約30秒間で水が止まる場合は、センサー表面の汚れやセンサーの前にある障害物の有無を確認してください。

●修理を依頼されるときは

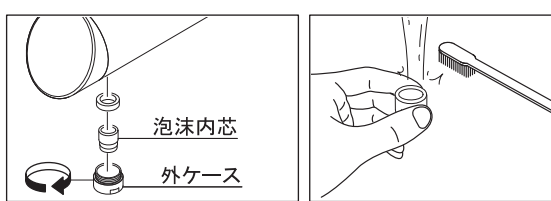
上記の点検を行っても正常に作動しない場合は、お買上げの販売店(水道工事店)にお問い合わせください。品番は、キャップの内側に貼付してあるラベルで確認してください。



分解禁止 説明書に記載された箇所以外は絶対に分解したり、改造・修理しないでください。火災や感電、故障の原因となります。

お手入れのしかた

●泡洩内芯のお掃除



最初お使いになっていた時より著しく水の出が悪くなった場合は、泡洩内芯を取外して、ゴミなどの異物をブラシなどで水洗いして取除いてください。

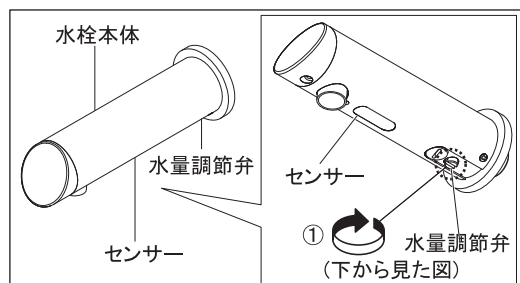
●器具のお手入れ



いつまでも美しくご使用いただくために。
●水栓器具の金属部は…
ふだんは乾いたやわらかい布でみがき、ときどきカーワックスなどをしみこませた布でみがいてください。
●水栓器具のプラスチック部・塗装面は…
乾いた布を使ってお手入れしてください。汚れがひどい時は、うすめた食器用中性洗剤を含ませた布で拭き、乾いた布で水気を拭取ってください。

注意 金属たわしやクレンザー・磨き粉など粒子の粗い洗剤・酸性や塩素系の洗剤・ベンジン・油などは、金属表面を傷つけたりプラスチック部・塗装面を傷めますので使用しないでください。

●ストレーナーのお手入れ



①水栓本体下側の水量調節弁を「マイナスドライバー」で閉めて水を止めます。

*水量調節弁を閉める際にセンサーが手などを検知して水が出る場合がありますので、注意してください。